

# 各務原市まちづくり活動助成金



# 令和3年度交付事業報告集



令和4年度交付事業一覧も掲載しています。

**各務原市 市長公室 まちづくり推進課**

〒504-8555 各務原市那加桜町 1-69 TEL:058-383-1997

E-mail:machidukuri@city.kakamigahara.gifu.jp

当報告集は  
ウェブページからも  
ご覧いただけます。



※掲載してある内容は、団体から提出された実施報告書類や団体へのヒアリングおよび取材をもとに作成しました。

# 令和3年度交付事業

スタート助成1年目 (NO.1~3)				
No	事業名	分野	団体名	ページ
1	アンケートによる住民の意向調査事業	まちづくりの推進	耀く大野町 まちづくり委員会	3
2	男女共同参画に根付いた住みやすい町づくり事業	男女共同参画社会の形成の促進	Tri-Angle	4
3	子育て・親力アップセミナー事業	子どもの健全育成	スコーレ各務原	5
まちづくり助成1年目 (NO.4・5)				
4	夏祭りプロジェクト事業	まちづくりの推進	雄飛地区まちづくり委員会	6
5	貞奴をキーワードにしたきっかけづくり事業	学術、文化、芸術又はスポーツの振興	貞奴フォーラム実行委員会	7
スタート助成2年目 (NO.6・7)				
6	世代間交流ワークショップ事業	学術、文化、芸術又はスポーツの振興	リョクエンナーレ 実行委員会	8
7	災害時に備えた炊き出し訓練事業	災害救援活動	鶉沼南町自主防災組織	9

※令和3年度事業は、当初、【スタート助成】1年目3事業・2年目3事業、【まちづくり助成】1年目2事業（計8事業）が採択されましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響から1事業が廃止しました。

当事業報告集は、市ウェブサイト（[www.city.kakamigahara.lg.jp](http://www.city.kakamigahara.lg.jp)）からも閲覧・ダウンロードすることができます。

ホーム > くらし・手続き > 市民活動・まちづくり活動・自治会 > まちづくり活動 > まちづくり活動助成金 > 令和3年度助成交付事業 > 令和3年度助成交付事業報告



## 各務原市まちづくり活動助成金とは

この助成では、市民の皆様が知恵を出し合い、力を合わせて地域の課題解決をする「市民によるまちづくり活動」の促進と NPO や市民活動団体の成長を目的に団体が行う活動や事業に要する経費の一部を、予算の範囲内で助成するものです。

### まちづくり活動とは・・・

まちづくり活動とは、広く市民に開かれ、地域課題解決に向けた取り組みを行っている公益的な活動をいいます。まちづくり活動によって、地域が元気になり、活動者自身もその成果を実感できます。

## まちづくり活動助成金の種類・条件等

助成実施期間		助成対象年度 4月1日から3月31日まで			
助成金種類		スタート助成金		まちづくり助成金	
		■設立後3年未満の市民活動団体 ■団体の設立及び自立を目指す		■設立後3年以上の市民活動団体 ■課題解決する団体への更なる成長を目指す	
		1年目	2年目	1年目	2年目
助成金額	助成率①	助成対象経費の2/3以内	助成対象経費の1/3以内	助成対象経費の2/3以内	助成対象経費の1/3以内
	限度額②	100,000円	50,000円	300,000円	150,000円
	持出し額③	(総事業費)-(事業実施に伴い得られる国・県補助金、利用料金、その他収入合計)			
	①～③の金額を比較し、一番少ない額が助成金額です。(千円未満端数切捨て)				
審査	書類	○	○	○	○
	公開プレゼンテーション			○	
報告	公開報告会	○		○	
	実施報告書類	○	○	○	○

- 申請は、年度内に1団体1事業1回まで、同一事業での申請は2年度(回)までです。
- この助成は2年目の交付を保証するものではありません。2年目の交付を希望する場合、再度申請が必要です。
- 当該助成事業の終了した年度の翌年度は、別事業であってもまちづくり助成金の申請はできません。

## 【参考】令和4年度のまちづくり活動助成スケジュール

まちづくり活動助成金 応募・審査の流れ	
令和3年10月	助成金説明会
令和3年12月	応募書類受付
令和4年2～3月	書類審査
令和4年3月	公開プレゼンテーション (発表は、まちづくり助成1年目のみ)
	採択・不採択通知

まちづくり活動助成金 申請・交付決定後の流れ	
令和4年4月	交付申請・交付決定・交付事業開始
令和4年11月	中間報告書類提出
令和5年1月	公開報告会
令和5年3月	実施報告書類提出 (提出締切日は事業によって異なりますのでご確認ください)

※助成金説明会・応募書類受付時期は変更になる場合があります。翌年度の募集についてはご確認ください。

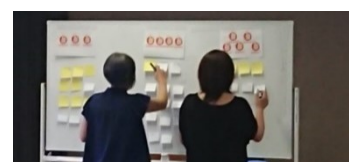
No.1	団体名	<b>耀く大野町まちづくり委員会</b>		
助成金種類 事業名	スタート助成<1年目> アンケートによる住民の意向調査事業			
事業概要	大野町住民(約360世帯)に対して、よりよいまちづくりのための意識・意向調査を実施する。そのアンケート結果を踏まえ、次年度に取り組むべき事業を企画立案する。 また、住民が調査報告書を読覧することにより、地域課題解決の意識が高まり、よいまちづくりのきっかけ作りを行う。			
事業費総額(予算)	293,530円	助成金交付決定額	100,000円	
事業費総額(確定)	230,041円	助成金額(確定)	100,000円	
主な経費内容	印刷用紙、プリンターインク、アンケート印刷、返送用封筒、報告書印刷、アンケートデータ入力、複合機(PDF作成用)、ホワイトボード			

### ●実施内容

- ワークショップを開催して、アンケート内容を討議
- アンケートについて事前説明会を開催
- 大野町の全住民向け意識・意向調査のアンケートを実施
- 回収率を上げるため、大野町内各種団体による手配布・手回収を実施
- アンケートから住民の抱える課題や意向を分析し報告書を作成

#### <当初計画からの変更点>

- ・広告掲載は不相当との意見が多く、アンケートへの広告掲載は取り止めた。
- ・各種団体による手配布・回収を実施した(アンケート返送用郵便代金を取り止め)。
- ・アンケート回答の画像データPDF化のため、プロジェクターの購入を見送りPDF作成用の複合機に変更。プロジェクターは説明会時に個人からの無償借用で対応した。
- ・コロナの感染拡大防止のため、飲食物の提供を取り止めた。
- ・本来目的をより促進するため、可能な限りワークショップ形式で実施した。



- 4月15日 キックオフミーティング 参加者2名+アドバイザー
- 4月24日 自治会委員会に諮問
- 5月9日 自治会委員会及び各種団体向け説明会
- 6月5日 第1回ワークショップ 参加者13名+アドバイザー
- 7月4日 第2回ワークショップ 参加者18名+アドバイザー含関係者4名
- 7月24日 アンケート事務局案提示 参加者21名+アドバイザー含関係者4名
- 8月1日 第3回ワークショップ 参加者14名+アドバイザー
- 8月21日 第4回ワークショップ 参加者11名
- 9月4日 アンケート入稿前確認
- 9月11日 アンケート配布・回収方法説明 自治会班長30名、会員10名
- 10月2日 アンケート回収・整理
- 11月7日 アンケート結果ドラフト版の説明
- 1月15日 アンケートの最終入稿確認
- 2月5日 アンケートを大野町全戸に配布 参加者25名
- 2月20日 アンケートを受けて来年度以降の事業計画打合わせ 参加者20名

### ●事業成果

- ・大野町の住民の意向調査は初めての取り組みで、今まで取り上げられていない地域課題が浮き彫りになった。  
(例:10年後の空き家問題、公園整備や公民館有効利用)
- ・アンケート記入時にも家族で対話が生まれ、まちづくりを話し合うきっかけになった。
- ・来期以降の事業にアンケート結果を反映し、住民主導の行事・事業を提案していくことが可能になった。

### ●団体の活動目的・目標

住民の安全・安心・地域社会の課題の解決に取り組む活動(事業)を持続的に支援し、以下の事業に取り組めます。

1. 自主防災に関する事業のサポート 2. 大野町認可地縁団体登録と土地の利活用に関する事業のサポート 3. 行事業案内(情報誌)発行やホームページの運用 4. 大野町の地域振興・地域課題の解決に関する事業のサポート 5. その他、よいまちづくりに必要な事業のサポート

No.2	団体名	Tri-Angle		
助成金種類 事業名	スタート助成<1年目> 男女共同参画に根付いた住みやすい町づくり事業			
事業概要	男女共同参画の視点から、身近な社会問題を考え、セミナーや勉強会を通じて市民および企業に向けて発信することにより、生きやすい社会を構築する。			
事業費総額(予算)	105,350円	助成金交付決定額	64,000円	
事業費総額(確定)	100,102円	助成金額(確定)	64,000円	
主な経費内容	講師謝礼、A4用紙、プリンターインク、開催案内印刷費、封筒、切手代、ラベルシール、養生テープ、消毒液、会場使用料、動画撮影委託料、USBメモリ、体温計			

●実施内容

■現役世代に向けて役に立つ知識と実践セミナー実施を企画した。

当初予定 8月29日(日) 那加福祉センター集会室

テーマ① 10:00～介護福祉士が語る老いのイロイロ(講師 介護福祉士 山下栄子)  
参加申込人数 20名

テーマ② 13:30～こどもの未来を支える保障制度と家計のキホン(講師 FP 尾関大輔)  
参加申込人数 10名

■開催直前にコロナ感染拡大による緊急事態宣言が発出、会場閉鎖の為、中止。

■代替措置として、予定同日(8月29日)団体事務所に於いて無観客で公演を録画。

・参加申込者向けのYouTubeによる限定配信(9月30日まで) 再生回数 59回

・少人数でのミニ視聴会 参加 4名

引き続き要望があれば、ミニ視聴会は実施していく予定。

4月28日～ チラシ・ホームページの作成

5月23日 打ち合わせ会議 → 中止

5月26日 講師打合わせ(テーマ1)

6月1日 セミナー開催チラシ配架・DM発送

6月3日 HP・FBでの発信

6月10日 講師打合わせ(テーマ2)

6月下旬 保育園・幼稚園・関連団体・店舗等への訪問・周知依頼

7月上旬 Chunichi Gifoo!新聞折込、ウェブ記事の広報依頼、企業訪問・周知依頼

7月31日 直前打合わせ、リハーサル

8月22日 中止連絡

8月29日 講演録画、YouTubeアップロード

9月1日～ 参加者へ配信URL連絡、視聴会の実施

10月3日 反省会

10月3日・25日 ミニ視聴会の実施 参加 7名



●事業成果

・テーマ①では介護を女性のワンオペにすることなく、現役の男性も積極的に関わってもらいたいと「男性や夫婦での参加歓迎」という文字を入れ、男性も3名参加いただけた。

・参加者の不安を軽くする一助となった。

・テーマ②では、それぞれの立場に立った内容が盛り込まれ生活設計に興味を持っていただくきっかけになった。

・情報発信団体として認知していただき、男性や夫婦でも気軽に参加していただく雰囲気を与えることができた。



●団体の活動目的・目標

男女共同参画の視点から、身近に起こっている労働問題、社会問題などを考え、市民および企業に向けて情報を発信することによって、各務原市が誰にとっても生きやすい街になることを目指している。

No.3	団体名	スコーレ各務原	
助成金種類 事業名	スタート助成<1年目> 子育て・親力アップセミナー事業		
事業概要	子育て中の家庭の養育者を対象に、これから育てていく子ども達の健全な育成を目指して、広く子育て講座やセミナーを開催して家庭のあり方を伝え、必要に応じてサポートしていく。		
事業費総額(予算)	152,780円	助成金交付決定額	100,000円
事業費総額(確定)	161,266円	助成金額(確定)	100,000円
主な経費内容	交通費、ポスター、チラシ、コピー代、オンライン配信用HDMIコード他、会場使用料、情報誌掲載広告料、リモート配信機材レンタル代、体温計、三脚		

●実施内容

■子育て・親力アップセミナー①

テーマ:「家庭で育む！自己肯定感の育て方」  
 子どもの自己肯定感を育てるために家庭でできること、日頃の関わり方の話を講師から聞き、ワークシートに取り組んだ。  
 日時:7月1日(木)10:00~11:30  
 場所:那加福祉センター集会室  
 参加者:会場 28名、オンライン 18名



■子育て・親力アップセミナー②

テーマ:「自分で考え行動できる子に育てる！」  
 子どもが主体的に考え、自立していくために必要な家庭での関わりや子どもの可能性の伸ばし方を講師から聞き、ワークシートに取り組んだ。家族に渡すカードを準備し、それぞれの長所を書いてもらった。  
 日時:11月2日(火)10:00~11:30  
 場所:蘇原コミュニティセンター集会室  
 参加者:会場 13名、オンライン 9名



■両日ともに質疑応答時間を設け、参加者の質問に対し講師から回答をもらった。

■アンケートを配布し、日頃の悩みを記入してもらった。受講後の感想から具体的な意識の変化が確認できた。

<当初計画からの変更点>

- ・感染症対策用のアクリル板を購入予定であったが、借用できたため不要となった。
- ・オンライン配信のため、ビデオカメラ固定用の三脚とオンライン配信機材を接続する配線の購入が必要になった。
- ・会場確保の都合から、開催時期・会場が変更となった。設営と配信のリハーサルのため、会場使用日が増えた。

4月	子育て・親力アップセミナー①企画会議	8月22日	子育て・親力アップセミナー②企画会議
5月10日	オンライン配信の相談	8月30日	後援申請
5月16日	講師打合わせ	9月19日	講師打合わせ
5月22日	団体打ち合わせ	9月28日	チラシ配布
5月下旬~6月上旬	後援申請・チラシ配布、配信練習	10月17日	講師打合わせ
6月下旬	オンライン配信ソフトの使い方を相談	10月24日	会場リハーサル
6月27日	会場リハーサル	11月1日	オンライン配信リハーサル
7月1日	子育て・親力アップセミナー①実施	11月2日	子育て・親力アップセミナー②実施
7月4日	反省会	11月19日	反省会
7月28日	後援後の報告書提出		

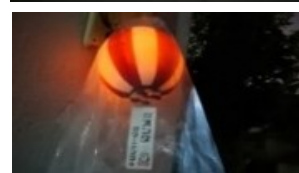
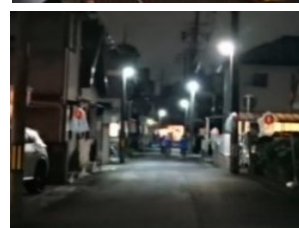
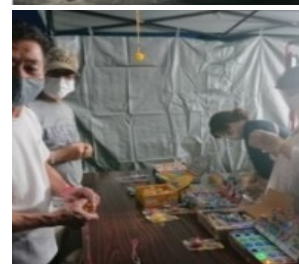
●事業成果

- ・家庭で子どもの言動に困りごとのある保護者も受講され、質疑応答で子どもの問題行動について質問された。
- ・アンケートによる受講者の感想では、「家庭で大切なことが具体的にわかった」など、肯定的な感想があった。
- ・受講者と直接交流出来た。その後の数名の学習会という形で、子育てについて、共に学ぶようになった。

●団体の活動目的・目標

家庭教育及び女性教育の振興をスコーレ(人間的資質を高めるための余暇の活用)を通して行うものである。すなわち、家庭教育力、女性の自己教育力及びボランティア活動への意識の向上を図り、以て、共に生き、共に学び、共に幸せを希求する生涯学習の推進を目的とする。

No.4	団体名	<b>雄飛地区まちづくり委員会</b>	
助成金種類 事業名	まちづくり助成<1年目> 夏祭りプロジェクト事業		
事業概要	雄飛地区内にある川崎山薬師寺で毎年8月の盆踊りに合わせ、境内の一部でバザーを出店し、雄飛地区内外から老若男女多数参加してもらい、地域活性化の相乗効果を図る		
事業費総額(予算)	718,709 円	助成金交付決定額	300,000 円
事業費総額(確定)	340,437 円	助成金額(確定)	226,000 円
主な経費内容	投光器、テント、ポータブルガス発電機、装飾用提灯・LEDライト、備品保管ケース、チラシ印刷代、参加者用光るブレスレット、事務消耗品、備品送料		
<p>●実施内容</p> <p>■「静かな夏祭り」の開催  日時:8月21日(土)・22日(日)19:00~20:00  場所:川崎山薬師寺境内  内容:①地域内事業者に協賛を募り、表参道・裏参道に提灯40丁を設置  ②小学6年生を対象にペーパーバッグ行燈7丁を作成してもらい、「将来の夢」「今はまっていること」を絵に描いて展示  ③バザーで予定していた光るおもちゃを参加の記念品として来場した子どもに提供</p> <p>&lt;申請時からの変更点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は3世代ふれあい交流の方法としてバザーを計画していたが(早い時期から会場での飲食は取り止める意向であったが、開催直前までゲームの提供や飲食物の持ち帰りを検討)、感染症の拡大を受け接触機会を最小限に留め、いも鉄砲や輪投げなどの物品を共有するゲームの提供や飲食物の提供を取り止めた。</li> <li>・代替措置とし、ペーパーバッグ行燈や提灯による幻想的な雰囲気を作り、参加者の思い出に残る静かな祭りを実施。</li> <li>・時間を短縮し2日間に分けて開催。</li> </ul> <p>4月4日 コロナ禍での夏祭り開催について、自治会との意見交換会  4月30日 スケジュール確認  5月26日 バザーの内容確認  5月29日 感染拡大による対応協議…規模縮小で提案作成  6月24日 バザー内容を見直し、飲食は中止とし、子ども中心に「静かな夏祭り」検討  7月14日 夏祭りの内容変更を共有  7月中旬 チラシ手配、備品・ゲーム用消耗品の購入  7月下旬 感染拡大により最終案の見直し検討、ゲーム提供を中止・担当者決定  8月10日 夏祭りの最終見直し案での実施を決定  8月21日・22日 夏祭り開催  9月26日 振り返り会議  10月10日・31日 全体振り返り会議</p>			
<p>●事業成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に連絡する手段がなく途方に暮れたが、那加第二小学校の協力で小学生に連絡をすることができた。</li> <li>・2年連続で中止とするのではなく、知恵を出し合って来年以降につながる催しにしたいという思いに対し賛同者があり、協賛をいただくことができた。やり方や考え方次第で道は開けるといふ希望の灯を示すことができた。次年度につなげたい。</li> </ul>			
<p>●団体の活動目的・目標</p> <p>1. 安全・安心が保たれるまち 2. 三世代が生き活きと共存しているまち 3. 世代間・地域内コミュニケーションが充分にとれているまち 4. 個々の多様性を認め合い、支え合うまち</p>			



No.5	団体名	<b>貞奴フォーラム実行委員会</b>		
助成金種類 事業名	まちづくり助成<1年目> 貞奴をキーワードにしたきっかけづくり事業			
事業概要	各務原市には、日本の女優第1号「川上貞奴」が建立した貞照寺そして国の重要文化財に指定されている「萬松園」があり、2021年7月には貞奴生誕150年を迎えます。この節目の年に合わせ、多様な世代が活動を始めるきっかけとなるよう、市内外の皆様に貞奴に対する関心を喚起する、成澤布美子「十二人の貞奴」朗読会を実施します。			
事業費総額(予算)	215,200円	助成金交付決定額	136,000円	
事業費総額(確定)	223,011円	助成金額(確定)	136,000円	
主な経費内容	講師謝礼、会場費、施設備品使用料、撮影・DVD制作委託費、チラシ作成費、整理券作成費、プリンターインク、事務消耗品			

●実施内容

■成澤布美子ひとり語り「十二人の貞奴」公演イベントを開催

日時:8月11日(水)14:00~15:30

場所:中央図書館4階多目的ホール

参加人数:74人(市内43.6%・市外56.6%)・スタッフ13人

内容:貞奴を育てた芸者置屋の女将など、貞奴に関わる十二人が、貞奴について証言する内容のひとり語り。

成澤布美子さんの公演前に、貞奴の紹介動画を上映し、貞奴に関する知識を得た上で公演をご覧いただいた。

■チラシ10,000枚を配布(表面:イベント告知、裏面:貞奴ものがたり掲載)・・・貞奴の情報告知

配布先:市内中学校全生徒4,595部、市内小学校各20部×17校340部

市内公共施設ラック、記者クラブ、各務原商工会議所、サクラヒルズ川上別荘、貞照寺、二葉館等

■貞照寺での整理券の配布

7月18日貞奴の生誕150周年当日に、貞照寺で整理券を配布。縁の地へ足を運ぶきっかけとした。

■公演記録DVDの作成、配布

「貞奴ものがたり(女優貞奴、萬松園、貞照寺)」、「十二人の貞奴」の公演を収めたDVDを20枚作成・配布。

このDVDを活用して、貞奴の関心を喚起するため、今後も継続して取り組む。

配布先:各務原市教育委員会学校教育課、文化財課、埋蔵文化財調査センター、観光交流課、中山道鶉沼宿町屋館、中央図書館、岐阜県観光企画課、ユネスコクラブ日本ライン、名古屋工業大学(麓先生)、貞照寺、二葉館、音貞実行委員会、サクラヒルズ川上別荘、川上新一郎氏(川上貞奴子孫)、創作オペラ「貞奴」プロジェクト



- 4月7日 スケジュール・チラシ打合わせ
- 5月7日 スケジュール・チラシ打合わせ
- 6月7日 チラシ仕分け、小中学校等へ配布
- 7月7日 市関係施設へチラシ配布
- 7月18日 入場整理券の配布
- 8月11日 成澤布美子ひとり語り「十二人の貞奴」公演イベント実施
- 8月16日~30日 アンケート集計、DVD作成打合わせ
- 9月6日 アンケート結果報告打合わせ、DVD記録映像内容検討
- 10月7日・11月7日・12月7日・1月7日・2月7日 貞照寺で勉強会実施



●事業成果

- ・アンケートでは「よかった・大変よかった」が98%だった。「貞奴のことが良く分かった」「萬松園や貞照寺の見学に行きたい」などの意見をいただいた。
- ・公演自体の規模は限られたが、チラシ・新聞記事・インターネット等での発信を通じ多くの方に貞奴の存在をPRできた。
- ・公演記録DVD活用や、各務原市・各務原市教育委員会との連携により、今後も市民等の貞奴への関心向上につなげたい。

●団体の活動目的・目標

川上貞奴に関する知識を集積し、市民等・市内外に向けて川上貞奴への関心を喚起することを目的とする。

- (1)貞奴に関する研究の促進 (2)貞奴に関する研究成果の公表 (3)貞奴への関心を喚起する



No.6	団体名	リョクエンナーレ実行委員会		
助成金種類 事業名	スタート助成<2年目> 世代間交流ワークショップ事業			
事業概要	子供からお年寄りまでの各世代が気軽に参加できるワークショップを子供たちの夏休み期間に開催し、その後作品展示を「ふらっと」及び緑苑小学校で開催する。			
事業費総額(予算)	155,290 円	助成金交付決定額	50,000 円	
事業費総額(確定)	140,033 円	助成金額(確定)	46,000 円	
主な経費内容	コピー代、事務用品、ワークショップ材料、会場使用料、ステンレス物干し竿			

### ●実施内容

子どもからお年寄りまでの各世代がワークショップを行い、ひとつの景色を作り上げることで交流・繋がりを感じられる事業を実施した。

(当初は、マーブリング・木目イラスト・草木染の体験を予定していたが、コロナ禍で満身に打ち合わせができない中、新しい内容のワークショップを準備することは困難が伴うことから、過去に指導経験がある「光る風鈴」のワークショップを実施した。)



### ■ワークショップ

7月12日(月)10-12時 緑苑小学校 3年生児童 22人

7月14日(水)10-12時 緑苑小学校 6年生児童 25人

7月22日(木・祝)10-12時/13-15時 緑苑地区中央集会場ふらっと 住民64人

ペットボトルをリユースした「光る風鈴※」のキットを提供し、参加者に制作してもらった。

※光源のLEDを使い短冊が風で揺れることにより4色のLED端子がペットボトルの内側のアルミテープに触れることで通電して各々の色の光が灯るもの。



### ■広報

回覧板・学校のお知らせメールで周知した。

ケーブルテレビ・新聞の取材も受け、周知の後押しとなった。

### ■展示

緑苑地域内で制作された「光る風鈴」と緑苑小学校3年生・6年生の作品合わせて111個を屋内に展示した。

7月30日(金)～8月5日(木)10:00-20:00 緑苑地区中央集会場ふらっと 観覧者280人

9月1日(水)～10月8日(金)緑苑小学校 作品展で展示(宝物展)

### ■スケジュール

4月14日 コロナ禍での事業実施の検討

5月 緊急事態宣言発出によりメール/SNSを通じ意見集約

6月18日 メニュー再検討、要領作成・関係機関との調整

6月29日 ワークショップ資材準備

7月14日 スタッフへの伝達講習

7月12・14・22日 ワークショップ開催

7月30日～8月5日 作品展示(ふらっと)

9月1日～10月8日 作品展示(緑苑小学校)

9月 感想及び反省の集約

10月6日 実施報告打合わせ



### ●事業成果

コロナ禍、諸々の地域内行事がことごとく中止・延期となり、交流が途絶え、笑顔が極端になくなっていた状況下で、感染対策を考慮しながら交流の火を絶やさないように展開できた。地域内で唯一の行事となり、大きな反響を呼んだ。

### ●団体の活動目的・目標

緑苑地域の高齢化が著しく進み、活気の減少、魅力低下が深刻な問題と思われるので、緑苑内に活気を呼び起こす取り組みを行う。

No.7	団体名	<b>鵜沼南町自主防災組織</b>		
助成金種類 事業名	スタート助成<2年目> 災害時に備えた炊き出し訓練事業			
事業概要	自主防災組織の活動として、地震に伴ってインフラが破壊された時にガスや電気に頼らない炊き出しが出来るような態勢を準備するため、薪を用いた炊き出しが出来るように幅広い住民を対象に訓練を行う。			
事業費総額(予算)	96,239 円	助成金交付決定額	32,000 円	
事業費総額(確定)	81,478 円	助成金額(確定)	27,000 円	
主な経費内容	炊き出し訓練用消耗品費(紙皿、丼ほか)・食材費、バーベキュー用鉄板、鉄板加工委託料			

●実施内容

■炊き出し訓練の実施

日時:12月12日(日)10:00~13:00

場所:鵜沼南町会館

参加者:スタッフ・自治会員 28 名、子ども会 13 名、一般参加者 9 名(計 50 名)

鵜沼南町住民を対象とした炊き出し訓練を実施。

設備の確認、薪割りや火起こし、食材の準備などを分担して行った。

子どもに対し、マッチでの火つけ、包丁での柿剥き、おにぎり作りを経験させ、防災に対して関心を持つ機会を提供した。



■備品について

炊き出しに使用する鉄板について、1年目事業で用意した鉄板には縁がなく、食材がこぼれていたことから、反省を活かし、元の鉄板に縁を付ける加工を委託した。また、新たに購入する鉄板は、縁付きのものを選択した。

■その他

訓練実施前には防災対策課に内容を相談。

当日は防災対策課から提供を受けたアルファ米などの備蓄品を配布し、備蓄の重要性を住民に伝えた。

<申請時からの変更点>

コロナウィルス禍で活動が制限され、予定していた事前練習は行えなかった。

- 04月17日 炊き出し訓練実施打合わせ
- 08月22日 炊き出し訓練実施案 詳細検討
- 10月02日 炊き出し訓練実施案 最終検討
- 10月30日 詳細打合わせ
- 12月06日 最終打合わせ
- 12月12日 炊き出し訓練実施
- 03月12日 振り返り会議



●事業成果

- ・回を重ねる毎に会員の手際が良くなり、実際の災害時にも戸惑わずに作業が進められると感じられるようになって来た。
- ・地域住民の自主防災活動に対する認知、自治会役員の中で自主防災の重要性の認知が進んできている。

●団体の活動目的・目標

鵜沼南町に限らず、多くの地域の自治会では形式的に自主防災組織を備えているが、実態は1年交代の自治会長や班長によって構成されており、蓄積された経験に基づいた防災活動が出来るものとはなっていない。そこで、1年交代ではなく継続して活動できる組織を設立した。災害時に慌てず実際に活動できる組織を目指すとともに、日常的に防災意識の向上を図る。

# 令和4年度交付事業

令和4年度は、以下の7事業が交付決定しました。

スタート助成1年目 (NO.1)			
No	事業名	分野	団体名
1	子供のボランティア参加促進事業	まちづくりの推進 子どもの健全育成	キッズボランティア リトルハンド
まちづくり助成1年目 (NO.2~4)			
2	ミニSLによる 三世代交流再開事業	まちづくりの推進 子どもの健全育成	ミニSL各務原
3	マルシェによる子どもたちの 成功体験応援事業	子どもの健全育成 社会教育の推進	NPO法人 for your smile
4	地域文化芸術レガシーの承継と新たな 挑戦：村国座・皆楽座を活用した第1 回貞奴芸術祭の開催事業	学術、文化、芸術又は スポーツの振興 観光の振興	創作オペラ「貞奴」 プロジェクト
スタート助成2年目 (NO.5~6)			
5	アンケートによる住民の意向調査事業	まちづくりの推進	耀く大野町まちづくり委員会
6	子育て・親力アップセミナー事業	子どもの健全育成 社会教育の推進	スコーレ各務原
まちづくり助成2年目 (NO.7)			
7	夏祭りプロジェクト事業	まちづくりの推進	雄飛地区まちづくり委員会

令和4年度事業の様子は、随時、「令和4年度交付事業取材レポート」でお知らせします。

取材レポートは、市ウェブサイトへの掲載・公共施設パンフレットラックへの配架を予定しています。

市ウェブサイト <https://www.city.kakamigahara.lg.jp/> から

ホーム > くらし・手続き > 市民活動・まちづくり活動・自治会 > まちづくり活動

> まちづくり活動助成金 > 令和4年度助成交付事業 > 令和4年度交付事業取材レポート

